



保安を守り労働条件向上のために力をあわせてたたかおう

人員不足は限界・苛酷な職場環境・賃金引き上げは最低

年々厳しくなる一方の労働者の生活実態

今年四月より施行された新石炭政策（九次策）の骨子は、九〇年代を構造調整の最終段階として位置付け、今後構造調整を促進し、均衡点までは経営の多角化、新分野の開拓を図りつつ、国内炭生産の段階的縮小を図ろうとしています。今後、この政策が具体的に実施されていきますが、八次策同様に急激な閉山・縮小合理化が実施されることは必至の情勢であります。現在、三井炭山社と石炭社による三池対策委員会が設置され、新分野開拓、経営多角化の検討が進められていますが、その内容については一切明らかにされていません。

このような情勢の中で、五月十一日より常一帯の三交代化が強行されます。三池労組は、三交代化提案以降今日までの対会社交渉において、将来展望が不透明な状況をふまえ、今後の生産計画、人員計画、保安対策などを明らかにするよう要求してきました。しかし会社回答は、①平成七年まではなんとか二三五万トン維持したい。その先は判らない。②人員計画は成り行き人員で行きたい。③保安対策は万全を期していきたい、など抽象的な答弁の繰り返しであります。

三池炭鉱は過去大災害を二度引き起こし、尊い労働者の命が奪われてきました。今日の厳しい石炭情勢の中で、再び大災害が発生すれば三池炭鉱の閉山が早まることは明白であります。今回の三交代化はまさに場当たりの対応であり、該当する常一帯労働者の家庭生活、環境に与える影響や保安に対する不安を残したまま強行されようとしています。

保安確保の具体案示さず

今後の坑内保安の維持・確保をはかるために、保安確保に関する緊急申し入れを三月十日会社に提出し、四月二十八日保安団交を行ないました。

申し入れの内容は、①メタンガス着火事故発生を保安監督局に報告しなかった理由や責任の所在、②三池炭鉱の保安管理、チェック体制、③保安教育のあり方や会議内容の再検討、④保安日の取り組みの見直しなど七項目、三池炭鉱におけるゼロ災をめざすための一歩踏み込んだ改善、保安確保をはかるための交渉でありましたが、司法捜査が終了していないことを理由に、現行保安規定通りの回答しか行なわれませんでした。

今回のガス着火問題は、旧態依然としての事故カクソの体質や、鉱山保安法に基づく届け出義務である鉱山保安監督局への連絡を怠っていた結果発生したものであり、その責任は重大であります。組合は改めて早急に社内の方針を整理して、再度保安団交を開催し、回答するよう申し入れました。

三交代化の実施内容

実施時期について 五月十一日(月)

三交代化する職種 払仕線、開発仕線、通気
当面二交代とする職種 (一・二番方のみ)
機械切羽、電気切羽

繰込時間

- 一番方 ①六時 ②六時二五分 ③六時五五分
 - 二番方 ①一四時 ②一四時二五分 ③一四時五五分
 - 三番方 ①二二時 ②二二時二五分 ③二二時五五分
- 人車区分 ①施設(機械、電気)
②採鉱(払、開発、通気)
③その他(運搬、機動班、請負)

常一番 三池鉱 八時四〇分

旧第一鉱 七時四〇分

九二春闘、低額で妥結

九二春闘は、賃金一方当たり七五〇円を柱とする賃金、災害補償、労働時間短縮など要求し、四月十四日から交渉を行なってきました。炭鉱労働者はここ十年間、全産業平均賃金の半額程度でガマンを余儀なくされてきました。

私たちは今次交渉にあたって、新政策にふさわしい労働条件を勝ちとり、炭鉱労働者の生活の安定と労働条件の改善をめざすためにも重要なたたかいとして位置付け、交渉を行なってきましたが、炭価引き下げや経営状況の厳しさなどを理由に終始低額を回答し、四月二日、一方当たり二四〇円で妥結せざるを得ませんでした。

大牟田地区春闘要求と妥結状況

組合	要求額	妥結額	その他妥結
電化労組	20,560円	13,059円	完全週休二日制実施
三井東庄労組	20,000円	13,500円	
三作労組	17,100円	10,000円	
九電労組	21,700円	14,900円	
西鉄労組	25,000円	15,700円	
J R 労組	23,452円	14,538円	
N T T 労組	25,000円	14,800円	
三池労組	19,400円	一方240円	(月 6,397円)
三井金属	31,075円	11,043円	

新賃金支払い予定

- 四、五、六、七月分は八月精算
- 八月分は 九月精算
- 九月分は 十月精算
- 十月以降は新賃金展開で支払い

常一番の三交代化強行反対抗議の時限スト

- 日時 五月十一日(月)
- 規模 一時間五十分の時限ストライキ
- 指標 ①常一番の三交代化合理化強行に対する抗議
- ②保安確立